

日本語ボランティア研修会 実施報告書

～外国人・日本人協働による日本語教室実践の試み～



2016年 3月

公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）

2015 年度日本語ボランティア研修会 概要

(研修1「日本語ボランティア研修会」／研修2「教室実習型研修(日本語教室)」)

(氏名敬称略)

■概要 日本語学習経験のある外国人と日本語ボランティアが協働し共に学ぶ研修会を、2段階で実施した。

■目的 ・横浜市における「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援の充実を図る。
・横浜市における公的日本語教室のあり方を検討する。

■基本方針 ・外国人当事者の企画運営への参画
外国人が日本語学習支援活動に入ること、多様性を生かす教室づくりを試みる。
当事者の声を生かせる場の創出、支援者となれる人材の育成。
・日本人と外国人双方向の「多文化コミュニケーション能力」の育成。
・実生活の場面や生活課題と結びつけた学習活動→学習者の自立。自己実現・社会参加

■企画運営 日本語ボランティア研修会検討チーム
武 一美(早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師、
NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ理事)
長嶺倫子(横浜国立大学非常勤講師・早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師)
朴 美真(特定非営利活動法人国際交流ハーティ港南台交流部会・韓国出身)
横浜市国際交流協会担当者2人

■主催 公益財団法人横浜市国際交流協会(横浜市国際局委託事業)

■会場 公益財団法人横浜市国交流協会

■研修会名 【研修1】日本語ボランティア研修会(全4回)
「日本語を勉強したことがある外国人と日本人が
お互いの経験を生かしあう教室活動づくり」
【研修2】教室実習型研修(日本語教室)(全5回)
『横浜に暮らす人のための初期日本語教室』体験研修

■受講者

【研修1】●日本語ボランティアをしている／これから始めたい外国人 23人(延べ59人)

●日本語ボランティアをしている日本人 21人(延べ62人)

【研修2】研修1受講者のうち、希望者。13人(外国人6人、日本人7人)(延べ57人)

■各研修会の内容

【研修1】日本語ボランティア研修会 **教室活動案をともに作る**
「日本語を勉強したことがある外国人と日本人がお互いの経験を生かしあう教室活動づくり」

【ねらい】日本人・外国人が互いの経験を共有しながら、協働で日本語教室の活動を作る。

【講師等】講師：関口明子(公益社団法人国際日本語普及協会理事長)、武一美
ファシリテーター：長嶺倫子、アシスタント：朴美真

【内 容】

回	実施日時	内 容	参加者
1	2015年 11月2日 13:30-15:30	テーマ 外国人と日本人、それぞれから見た日本語教室 ●お互いに知り合う ●日本人/外国人混合グループ⇒日本人/外国人別	受講者 31人 講師等 3人
2	11月9日 13:30-15:30	テーマ 外国人と日本人と一緒に作る日本語教室だからできること ●日本語学習経験者による、日本語支援体験談 ●今やりたいこと、これからできるようになりたいこと、とくいなこと、したいこと⇒ことばの枠を払い「人生」まで広げる。	受講者 33人 講師等 4人
3	11月16日 13:30-15:30	テーマ 日本語ボランティアをする外国人の話を聞く/ 教室活動案を作ってみる1 ●日本語学習経験者による、多方面での活躍の体験談 ●理想の日本語教室を考えよう。どんな活動がしたいか。	受講者 35人 講師等 4人
4	11月27日 13:30-15:30	テーマ 教室活動案を作ってみる2 ●理想の教室のキーワード⇒活動案へ。	受講者 22人 講師等 2人

【研修2】教室実習型研修（日本語教室） **教室活動をともに体験する**
「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」体験研修

【ねらい】日本人外国人協働による日本語教室の計画・実践により、お互いの役割、理想の日本語教室を考える。

【講 師】武一美、朴美眞

【教室実習型研修とは】・研修受講者にとっては、研修（＝教室活動の観察・体験）
・学習者にとっては、日本語教室（＝学習機会の提供）

【内 容】

回	実施日時	内 容	参加者
1	2016年 2月1日 13:30-16:00	事前研修1 ●「理想の日本語教室」キーワードを紹介。 ●教室1でのトピックを考え、デモンストレーション。	研修受講者 11人 講師 2人
2	2月15日 12:30-15:30	事前研修2 ●デモンストレーションと観察。 ●自分たちで作ったポイントに基づく評価・振り返り。	研修受講者 11人 講師 2人
3	2月22日 12:30-15:30	日本語教室での活動体験1 ●活動体験と振り返り。 ●次回の活動への期待。	研修受講者 13人 学習者 10人 講師 2人
		日 本 語 教 室 たくさん話します 教室コミュニティを作ります 教室1 知り合う 次回のトピックを決める	
4	2月29日 12:30-15:30	日本語教室での活動体験2 ●活動体験と振り返り。	研修受講者 10人 学習者 6人 講師 2人
		教室2 教室1で決めた トピックに基づく活動	
5	3月7日 13:30-15:30	全体の振り返り ●体験研修を通じて深まったこと、変わったこと。 ●印象に残ったこと、体験研修を通じて新たに出てきた/変化した/深化した「理想の教室」のキーワード。	研修受講者 11人 講師 2人

【研修1】日本語ボランティア研修会

「日本語を勉強したことがある外国人と日本人がお互いの経験を生かしあう教室活動づくり」

第1回 外国人と日本人、それぞれから見た日本語教室

2015年11月2日

【この回のねらい】

日本語ボランティア（以下日本人）と外国人それぞれの日本語教室の存在のとらえかたを知ること。

【研修の様子】

1 外国人・日本人混合グループでの話し合い

「これまでの日本語教室での経験」「私ができること、得意なこと、やりたいこと」など。

2 事例紹介

学習者、支援者みんなが、お互いに協力しあって活動する日本語教室の話を行いました。

外国人

- ・日本語ボランティアに興味があります。
- ・日本語ボランティアになるための勉強がしたいです。
- ・外国人が日本に来て、困ったことを早めに助けたい。

日本人

- ・外国の方の気持ちやニーズをくみ取った教室活動について再考したい。
- ・外国人の視点を学んでみたい。



3 外国人・日本人別グループでの話し合い

「日本語教室に期待すること」

日本人

（外国人グループに期待すること）

- 日本語をこれから学ぶ人／ずっと学んでいる人が一緒に学ぶことで、日本語力がアップする。関係が強くなる。
- イベントなど、今までやっている事にも意見がほしい。参加してほしい。
- 同じ国の人たち（or 学習者同士）の関係を作るキーパーソンになってほしい。
- いろいろなことを教えてほしい
- 教室に来たり来なかったりするの・・・。



外国人

（日本人グループに期待すること）

- 10分でもいいから生活に困っていることなど、一緒に解決したり質問したりしたい。
- 一緒にいろいろなことができています
- 普通の日本語／自然な日本語／丁寧な日本語
- かたい文法ではなく、生活にかかわる日本語を。気軽に話す。
- 一方的に教えられないのではない。
- 文化、歴史などをお互いに教えあう。
- 病院などの言葉を知りたい。

第2回 外国人と日本人と一緒に作る日本語教室だからできること

2015年11月9日

【この回のねらい】

日本人、外国人ともに「自分が、何がしたいのか、何ができるのか」か、を伝え合うこと。

【研修の様子】

1 日本語学習経験者の体験談

話題提供者：加藤マリアナさん（ルーマニア出身）

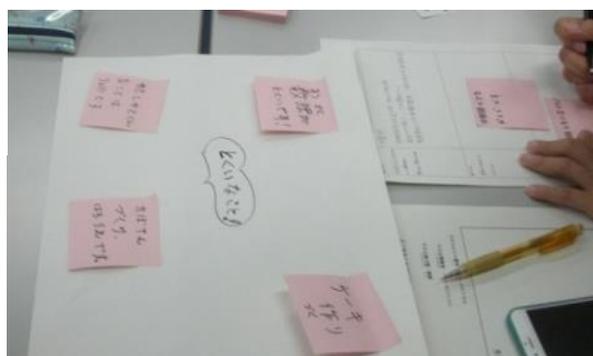
- がんばって日本語で運転免許を取ったこと
- その後、免許を取りたい外国人の手伝いをしたこと
- 日本語教室の「対話の時間」を通した、自身の変化
- 「自信のない外国人には「絶対大丈夫」と言いたいです」



2 「私の場合」を書き出してみる

「今やりたいこと、これからできるようになりたいこと、
今やっていること、得意なこと、したいこと」

「日本語教室」や「日本語」という枠を取り
払い、人生（Life）にまで広げて書きました。



外国人

- 自分の国で日本語を教えたい。
- 翻訳者になりたい。
- 日本人とちゃんと会話ができるようになりたい。
- みんなの幸せ、特に子どもたち。
- 日本の言葉のかけかたを覚えたい。
- 魚のおろしかたを勉強したい 等

日本人

- 子どもたちが幸せになれるようなサポートをしたい。
- 外国人のそばにいること。困ったら「あの人がいるな」と思ってもらえるような存在になれば。
- もっとよい教材を作りたい 等

受講者の声（アンケートから）

- いっぱいんきよした。（フィリピン） ●やればできるとおもった。（フィリピン）
- いろいろ助かってくれて有難うございます。（台湾）
- マリアナさんのお話があったおかげで、「教室」とか「ボランティアする人される人」という枠組みが崩れたうで、グループで話せてとてもよかったです！（日本）
- 実際の現場で学ぶ言葉、生きた学習をもっと。（日本）
- 自分が「今できること」に対して、もっと積極的になってみようと思う。（日本）

第3回 日本語ボランティアをする外国人の話聞く／教室活動案を作ってみる1

2015年11月16日

【この回のねらい】

日本人と外国人が共に、日本語教室でやってみたいことを考え、教室活動案を作ること。

【研修の様子】

1 日本語学習経験者の体験談

話題提供者：藤井文さん（中国出身）

- 来日したときの不安
- 介護の勉強や、アルバイト、日本語教室の経験
- 子どもの学習支援、通訳など、現在の様々な活動の紹介
- 「まずは、言葉がわからなくてもできるボランティアを始めました」

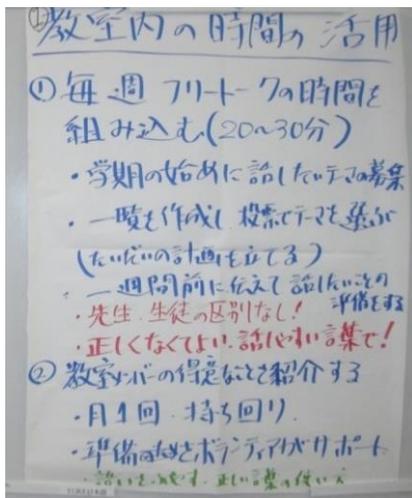


2 理想の日本語教室・日本語教室でやってみたいこと

前回の「(個人が) やってみたいこと、得意なこと」をもとに、日本語教室でやってみたいことをグループで考えました。

話し合い

- 何がやりたいか
- どんな準備がいるか



日本語教室でやってみたいこと

- 海外旅行に行く時に、その国に必要なことを教えてもらう。
- 「やさしい本」を作る。(日本の主婦のための本)
- 趣味を通して日本語を学ぶ。
- 各国の料理の紹介。料理教室。日本の正月料理。
- 盆栽の育て方を学ぶ。 など

受講者の声 (アンケートから)

- 色々な国の話が聞けて、参考になるアイデアも沢山あるので、とても良かったです。(中国)
- おたがいに先生といっしょに、いろんな活動が出来たらたのしいです。(外国人・出身不明)
- 日本語教室で物足りなく思っている部分をきく事ができた。(日本)
- 日本語学習体験者はベテラン講師よりも良き学習者の理解者ですね。出る幕はないなと思いました！(日本)

【この回のねらい】

実際の日本語教室で使えるような教室活動案を作り、発表すること。

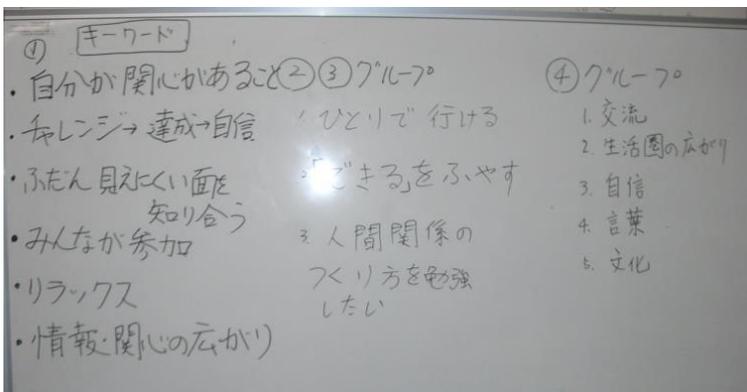
【研修の様子】

1 活動案のキーワード

前回の「日本語教室でやってみたいこと」から、グループでキーワードを考え、書きだしました。

活動案のキーワード

交流・生活圏の広がり・自信・言葉
文化・ストレスをなくす・リラックス・
できることをふやす・実生活・相手に合
わせる・共感・理解・楽しむ等

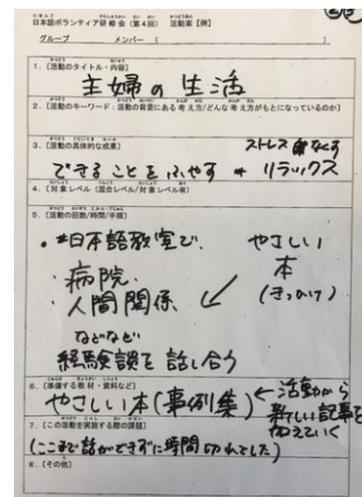


2 キーワードをもとに活動案の練り直し

ワークシートを活用し、外国人・日本人が協力して、教室活動案を作りました。

各グループの教室活動案

- 関心のあること、得意なことを話す。
- 主婦の生活
- 季節ごとの文化を学ぶ
- 相手に合わせる教室
- 大人が子供の世界に入る
- 一緒に遊びながら勉強する。
- 会話から始める日本語教室



受講者の声（アンケートから）

- ボランティアになりたいです。（インドネシア）
- ディスカッションがあって、たのしく話し合うことができましたと思います。（ブラジル）
- 活動案の作成の過程での意見交換は、楽しく、参考になりました。（日本）
- 日本人は教える人、外国人は教わる人という枠組みは、無意識に両者に備わっている（ことが多い）ことを改めて考えさせられました。（日本）

【この回のねらい】

日本人と外国人が、お互いを生かしながら「たくさん話す」日本語教室を実施することへの理解。日本語教室の準備。

【研修の様子】

1 「理想の日本語教室」のキーワード

11月研修会を思い出し、改めて理想の日本語教室のキーワードを出し合いました。

「理想の日本語教室」キーワード

- 合点 ●楽しくたくさん話せる ●聞きあえる
- 日本語で多文化共生 ●読書 ●実用的、楽しい
- わいわい ●たのしくべんきょうします。 ●つなぐ
- なかよくたのしくわいわいしましょう。
- あいじょうでにぎやかに日本語を学ぶ



2 どんな日本語教室にするか確認

これから作る日本語教室の「考え方」と「ルール」を確認しました。

教室の考え方

- 日本語をたくさん使います。
- お互いのことが少しずつわかるようにします。「教室コミュニティ」を作ります。
- このことを実現するために、お互いに楽しく話せるトピックを、ボランティアと学習者がいっしょに考えます。

教室ルール

- 学習者もボランティアもひとりで話しすぎないこと
- 学習者・ボランティアみんなでトピックも考えること
- おしゃべりで終わらないこと ●積み重ねること（話の内容・ことば・その人について）
- 次回にどのようにつなげるのか考えること

3 グループでトピックを考え、実演

話し合いのあと、さっそくデモンストレーション。グループが選んだトピックは、「したいこと」と「アレルギー」でした。

デモンストレーションを見ての感想

- 支援者役が学習者役の一人一人に分かったかを確認しながら進めていったのが良かった。
- 学習者役の人同士が教え合っていて良かった。



【研修2】教室実習型研修（日本語教室）
「横浜に暮らす人のための初期日本語教室」体験研修

第2回 事前研修2

2016年2月15日

【この回のねらい】

第3回・第4回で実施する日本語教室の準備。日本語教室では、学習者が「実用知識を教わる」ことと、学習者自身が「たくさん話す」ことのバランスが大事であることを知ること。

【研修の様子】

1 教室の「ふりかえりポイント」

グループで話し合っ決めてました。これにより、教室の目的を、皆がわかるようになりました。

2 各グループのデモンストレーション

10分間のデモ。支援者役・学習者役・観察者役にわかれしました。

ふり返りポイント

〈共通〉

- 学習者はたくさん話したか。
- お互いのことがわかるようになったか。

〈各グループ(A) (B)〉

- 皆で学びの場をつくれたか。(A)
- 自分の症状が言える。(B)
- 母国語で問診票が出せる。(B)
- 日本の病院の様子が理解できる。(B)



(A) 「ちらし寿司の作りかた」



(B) 「病院の受付・受診」

3 ふりかえり（グループ⇒全体）

この教室では「実用知識」+「たくさん話す」の両方が必要、と確認してからデモンストレーションをふりかえりました。



ふりかえり

〈受講者〉

- 生徒役同士、お互いが学ぶことができた。
- お互いを知るとのことではバッチリだった。
- タブレットなど、ビジュアル面でも工夫が見られた。
- スペイン語にはオノマトペがない。「フラフラ」という言葉は、この授業を作るときに自分で調べた。
- 文をおもしろく作った。学習者役がにぎやかに、楽しくできるよ心かけた。

〈講師〉

- 自分の経験を反映されたのかな、というのがよく伝わってきた。だから面白いデモになったと思う。

第3回 日本語教室での活動体験
「横浜に暮らす人のための初期日本語教室」1

2016年2月22日

【この回のねらい】

〈学習者〉教室活動に参加する人が、自分の思っていることを色々な方法（母語・日本語、その他）で伝えること。自分が勉強したことを日本語で言えること。

〈研修受講者〉研修受講者と学習者が「一緒にこの教室を作る」という気持ちになり、次回の日本語教室に期待を持てること。

【活動の様子】

1 日本語教室：グループ別活動

4つのグループに分かれ、自己紹介・お互いを知り、たくさん話す活動をしました。

2 日本語教室：次回の教室トピックを紹介

支援者・学習者みんなが話し合っただけで、次回日本語教室のトピックを紹介しあいました。

学習者と考えたトピック

- 119番、病院、着物
- お好み焼きの作りかた
- 安くておいしい日本料理のレシピ
- 自分の国のこと

3 研修：教室のふりかえり・次回に向けて

研修受講者でふりかえりを行いました。



ふりかえり

〈受講者〉

- 学習者と一緒に教室を作る（学習者も話したいことを提案する）＝対等な立場で。
- 日本語と母語の使用のバランス。
- レベル差があると難しいと思った。
- レベル差があっても支援者も学び合う視点から見れば、スタートラインは同じ。

学習者の声（アンケートから）

- りょうりと しゅみと くにのことを はなしました。Parterと いっしょに はなするとき 私は おもしろいでした。
- 日本語で話しながら、話し方を学んで直してもらう、とても意義のある時間だった。（韓国語）
- 日本で興味のあることについて話しました。自分達の生活のことを発表したり、話したりしました。（スペイン語）

【研修2】教室実習型研修（日本語教室）
「横浜に暮らす人のための初期日本語教室」体験研修

第4回 日本語教室での活動体験
「横浜に暮らす人のための初期日本語教室」2

2016年2月29日

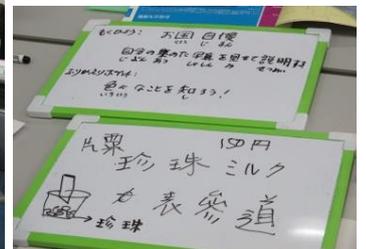
【この回のねらい】

- 〈学習者〉教室活動に参加する人が、自分の思っていることを色々な方法（母語・日本語、その他）で伝えること。自分が勉強したことを日本語で言えること。
- 〈研修受講者〉日本語教室では、学習者が「実用知識を教わる」ことと、学習者自身が「たくさん話す」ことのバランスが大事であることを知ること。
学習者自身が話したこと・得たことを知り、「学習者の学び」をもとに活動を作ること。

【研修の様子】

1 日本語教室：グループ別活動

前回みんなで決めたトピックについて、たくさん話しました。



2 日本語教室：学んだこと

学習者は、教室で学んだことを話しました。

学習者の発表（学んだこと）

- お好み焼きの作りかたをならいました。材料を作りかたが、かんたん、わかりました。
- Uさんは、銭湯、子どもの時お風呂入って、お父さん、子ども、お母さん、順番、びっくりした。
- 料理の動詞、名詞、材料の名前を勉強しました。すごく役に立った。



3 研修：教室のふりかえり・総括に向けて

研修受講者でふりかえりを行いました。

ふりかえり（研修受講者）

- 話すことで相手のニーズを拾う。ニーズが合えば長く続く。
- 互いに話すことで、より豊かな活動になる。それを学習者に伝えなければいけない。
- 大切なのは、学習者が「わかりません」と言える教室。
- 「難しい」とか「簡単」とかは学習者が決めることで、支援者が決められない。
- 学習者と支援者の関係が「教える人、教わる人」でなく対等ということ、学習者にどう伝えるか。
- 外国人支援者は学習者と同じ体験者として、持っているポイントがある。
- 外国人支援者とチームを組む時の役割はどうするか
⇒日本人支援者は外国人支援者と何がしたいのか考える。

【研修2】教室実習型研修（日本語教室）
「横浜に暮らす人のための初期日本語教室」体験研修

第5回 全体の振り返り

2016年3月7日

【この回のねらい】

- 実際に日本語教室を体験したことで、「理想の日本語教室」を見直す。それを言葉にできること。
- 外国人受講者が、体験を通して、支援者として活動したいという積極的な気持ちになれること。

【研修の様子】

1 研修を思い出して

「印象に残ったこと」「面白かったこと」「困ったこと」などをグループで話しました。

2 「理想の日本語教室」の変化

ひとりで「理想の日本語教室」のキーワードを書きました。その後、第1回に書いたときと、日本語教室体験後の今では、キーワードがどのように変わったかを話しました。

体験研修後の「理想の日本語教室」

- Aさん「学習者が知りたいテーマを日本人からも投げかけ、学習者とやりとりする」
 - ・自分の国について話してもらうことがあるが、学習者は日本の文化を知りたいがっている。日本文化についてやりとりする。
- Bさん「仲良く話す」
 - ・先生、生徒の関係ではない。おしゃべりも勉強になる。
- Cさん「日本の文化、考え方を知る」
 - ・挨拶や独特の考え方など、日本の文化や考え方を教えてもらう。それで生活がリラックスできる場になればいいと思う。

3 研修で印象に残っていること



話し合いから

- ひとりよがりには話していたと思った。相手が何を話したいのかをよく聞くことが大切。
- 学習者の表情を知るためには、座り方が大切。
- 教室は何でも話せる雰囲気がある教室になりたい。
- テキストの中だけでなく、自分の言いたいことを話す。日本語でなくてもいい。
- 外国人支援者と日本人支援者のネットワーク。学習者にも役割があるといい。

アンケートから

- 日本語学習体験者として、これからもこのプログラムの協力をさせていただきます。
- 教室にたいしてたくさんのサポートをまなびました。
- プログラムの目的は何かは分かったが、細かいことを理解するのが難しかった。
- 外国の方が日本語を入門者と一緒に学ぶことをすでに実践しておられる報告をうかがえて、私も何らかの形で実践できるといいかと思えます。
- 今回の体験研修に参加することによって、今後、自分も誰かを助けることが出来るかもしれないという点に気が付きました。ぜひ、今後もこのような研修を企画してください。

2つの研修会をふりかえって

「学習者と支援者が一緒に作る日本語教室」

関口明子さん（【研修1】講師）

日本語教室に通っている外国の方々が、日本語支援を受けるという一方的な活動だけではなく、日本語教室の一員として積極的にプログラム作り等にも関わっていくための考え方の土台作りとこの研修会を私は位置づけました。学習者が今までの人生で既に培ってきた多様で貴重な能力を自分たちの教室に生かしていくことなのです。そのためには日本語支援者の考え方や姿勢も日本語を支援するという一方的な活動姿勢を取っ払うことを考え、開始しました。参加した外国の方々は最初「この研修で、日本語の勉強ができる」というのが動機だった方が多かったようです。しかし、3回の研修の中で「生活で得意なこと・やりたいこと」というテーマで言葉の枠を取り払ったりしたことで、この研修では自分の考えや意見を聞かれている、何をどうしたいか自分が考えなければいけないと気づき始めました。不自由な日本語であっても「これをやりたい」ということが沢山出てきました。

学習者は、異国の地で、社会参加するために日本語を学び、実は教室でも、もっと意見を言ったり、いろいろなことに関わっていきたいと思っている事実をこの研修会で強く感じました。

日本語教室で、日本人は学習者をもっと頼ってはどうか。言葉を自由に駆使できないということは、母語ではないのですから当然です。日本人はその部分の協力は惜しまず、でもそれ以外は日本語母語話者にはない素晴らしい能力が言葉の奥には秘められています。それをもっともっと引き出しましょう。もっともっと一緒に考えていきましょう。一緒に教室を作る中で日本語力も高まります。その中で運営スタッフとなる人がきっと出てくると思います。私にとっても充実した楽しい研修会でした。
(談)

「研修から見えてきたこと」

長嶺倫子さん（【研修1】ファシリテーター）

「外国人」「日本人」が共に作る地域日本語教室の在り方を探る、というテーマで参加希望者を募り活動を行いました。実際に活動を進めてみると、当初は「外国人は教室を作るためのサポート側」といった、従来からの関係性から抜け出すことが難しい様子が「外国人」「日本人」双方に見られました。しかし、回数、時間を重ねるにつれ「外国人」「日本人」といった枠に縛られず一人の人間として、「共に生きる」ための「地域日本語教室」において何ができるのか、どのように同じものを一緒に作り上げていったらよいのか、将来も見据えた上で各人が考え共有することができました。

また、様々な教室や場で活動する参加者が交流する場ともなりました。それぞれの「教室」だけで完結するのではなく、様々な地域日本語教室における連携、コミュニティのつながりが「共に生きる」ための「地域日本語教室」として大切になってくることを共有することもできました。

今回の研修を通し、互いの存在、力に思いを馳せることができたと思われまます。今後は、其々の持つ力を十分に生かせるような「コミュニティ」としての教室、場、関係性作りがより進むような働きかけを其々が考え、実践に繋がることを期待されます。

「教室から社会へ」

武一美さん（【研修1】【研修2】講師）

実践型研修では、日本人支援者と外国人支援者（当事者）とが協働で「実現可能な日本語教室」の理想の姿を模索しました。各々の理想を語り、そこから目標を決め、活動案を作り、実際の活動で学習者と向かい合う中で活動案の目標と授業案を修正しました。「学習者がたくさん話し、学習者と共に作る教室」を念頭に、初期日本語教室では、学習者と共に活動テーマを考えました。5回にわたる実践型研修では、毎回の研修受講生間の議論が圧巻でした。この議論の中で、理想の日本語教室は、教室の域を超え、理想の多文化共生社会を目指しているように私には感じられました。日本人支援者と外国人支援者と、そして学習者が、協働で、創る、「実現可能な日本語教室」の姿は一つではなく、様々な可能性があります。その実現のためには、日本人支援者と外国人支援者、そして学習者という3者間のコミュニケーションが不可欠であるという思いを抱き、実践型研修を終えました。みなさん、ありがとうございました。

「理想の日本語教室に一步近づいて」

朴 美真さん（【研修1】アシスタント・【研修2】講師）

日本語学習経験の当事者である私が理想の日本語教室だと思っているのは、日本語と言う媒介語を使ってお互いに支えあいながら、勉強の為の場所を超えたコミュニティのようなものです。

だが、今までの日本語教室では、日本人ボランティアと外国人学習者はいつも教える側と教わる側に分けられて、教える側は「日本語を教えれば良い」、教わる側は「教える側によって決められた内容を勉強すれば良い」という考え方が一般的でした。

学習者の日本語習得力は教える側によるところが大きいという考え方が強くて、だからいつも教え方ばかりが重視されていたかも知れません。しかし、実際には教える側の教え方の工夫だけではなく、学習者の積極的な役割も非常に重要なものです。

学習者の積極的な役割を引き出す為には、楽しく話し合うことを通じてニーズを把握し、共に学び、お互いを知る事が何より大事なものです。

このような考え方から始まった今回の研修会は、参加者たちが自分自身のこれまでの経験を振り返り、自由なやり方で新しい形の教室作りにチャレンジしてみて、真の意味での多文化共生についてもう一度考えるきっかけとなりました。

その意味で、今回の研修会は未だ道半ばですが、良い方向に向かって理想の日本語教室に一步近づけたと思います。